

**2009年3月19日**

---

WinATLAS Version 2.16.19.0

- WinATLAS プログラムの直角補正モード時に『ラバーバンド』(ホットキー R)を使用する際に異なる 4 タイプのカーソルを建物の形状に合わせて交互に使用する事が可能になりました。

4 タイプのカーソルはホットキー『R』を押す事で変更する事が出来ます。

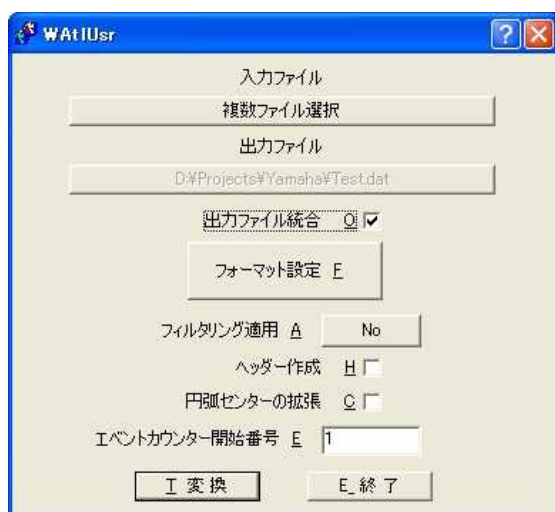


**2009年3月9日**

---

WAtIUsr プログラム (エクスポート ユーザ 定義アスキー)

- WAtIUsr プログラム(ユーザ 定義アスキー)に新しく『出力ファイル統合』機能が追加されました。  
この機能は複数のファイルを選択した時に選択する事で出力ファイル名を指定する事が出来ます。



## WParset プログラム (パラメータ設定)

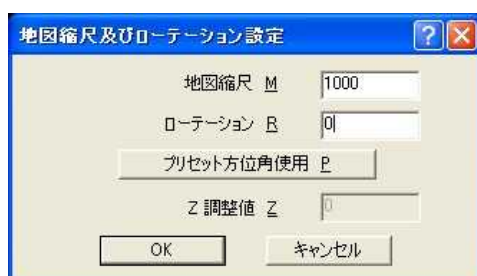
- Wparset プログラム(パラメータ設定)の基本設定機能に新しく『**自動直角補正許容範囲**』機能が追加されました。  
この機能を選択する事で建物の直角補正モード時の設定が自動許容範囲を選択した事になります。



## 2009年2月27日

### WinATLAS Version 2.16.18.1

- WinATLAS プログラムの直角補正モード時に使用する『ラバーバンド』(ホットキー-R)が改良され、建物等の不明瞭なコーナーを合わせるのが容易になりました。
- WinATLAS プログラムズーム拡大機能(ホットキー=W)使用時に表示される拡大エリアの形状が WinATLAS のウインドウ形状と同じになる様に改良されました。
- WinATLAS プログラムのメインメニュー『属性』項目の『地図縮尺』機能に新しく『プリセット方位角使用』機能が追加されました。  
この機能は『WinATLAS Version 2.16.17.0』で追加された機能を使用して指定した方位角を地図ローテーションとして設定する事が出来ます。



## 2009年2月19日

---

WinBatch Version 1.8.16.1

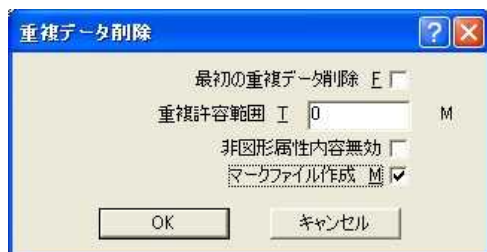
- WinBatch (バッチ編集)プログラムはコマンド実行後に新しいログ・ファイルを作成するようになりました。  
この『MASTER.LOG』ファイルは個々に実行されるコマンドのログを結合して作成されます。

## 2009年2月16日

---

WinBatch Version 1.8.16.0

- WinBatch (バッチ編集)プログラムの『重複データ削除』コマンドに新しく『マークファイル作成』機能が追加されました。  
この機能を選択した場合、重複データを削除する事は出来ません。

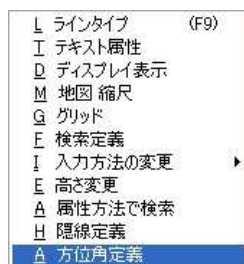


## 2009年2月10日

---

WinATLAS Version 2.16.17.0

- WinATLAS プログラムのメインメニュー『属性』機能に新しく『方位角定義』機能が追加されました。  
この機能は2点を指定してその方位角を計算します。  
プログラムは計算された方位角を記録して『DTM』測定時に使用する事が可能です。



## 2009年2月3日

---

WinATLAS Version 2.16.16.0

- WinATLAS プログラムの直角補正機能(オンラインモード)を使用する際の許容範囲設定項目に新しく『自動許容範囲』機能が追加されました。  
この機能はデジタイズした建物の最初のラインの10%の距離を直角補正許容範囲として使用し、建物の直角補正を実行します。



## 2009年2月2日

---

WinATLAS Version 2.16.15.0

- WinATLAS プログラムのメインメニュー『編集』項目の『全体編集』機能に新しく『F=3 シンボル変更』機能が追加されました。



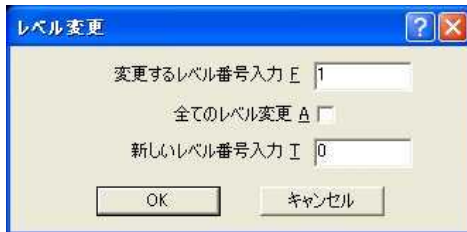
## 2009年1月30日

---

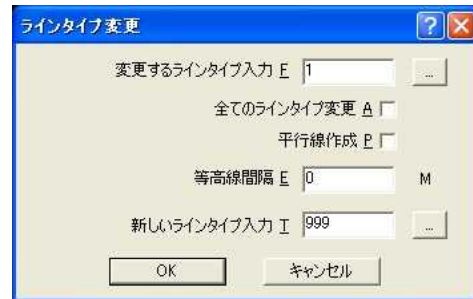
WinATLAS Version 2.16.14.0

- WinATLAS プログラムのメインメニュー『編集』項目の『全体編集』機能の『レベル変更』並びに『ラインタイプ変更』機能が変更され、WinBatch (バッチ編集) プログラムと同様の機能が追加されました。

### レベル変更



### ラインタイプ変更

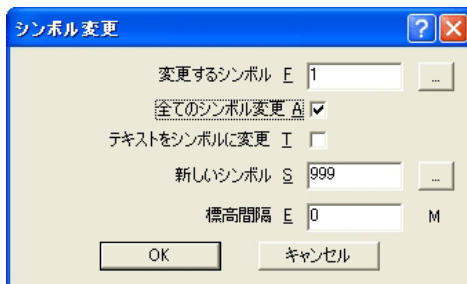


**2009年 1月 20日**

---

WinBatch Version 1.8.14.0

- WinBatch (バッチ編集)プログラムの『テキスト/シンボル変更』コマンドに新しく『全てのシンボル変更』機能が追加されました。  
この機能を選択すると『新しいシンボル』項目に指定しているシンボルに全て変更する事が可能です。



## 2008 年

### 2008 年 11 月 20 日

---

WinATLAS Version 2.16.13.0

- WinATLAS プログラムのバックアップウィンドウに新しく『保存』ボタンが追加されました。  
この機能を選択すると使用しているファイル名で保存が可能です。  
しかし、データ編集時またはデータ取得中にこの機能を使用するとこれら途中のデータは保存されません。

### 2008 年 11 月 13 日

---

WinATLAS Version 2.16.12.0

- WinATLAS プログラムのメインメニュー『編集』項目の『編集の変更』機能を『ポップアップメニュー』で使用時の機能が下記の様に改良されました。

#### <改良前>

削除 移動 ポイント編集 部分編集 セグメントクローズ セグメント接合
--

#### <改良後>

削除 移動 ポイント編集 部分編集 ラインデータ方向反転 高さ変更 レベル変更 ラインタイプ変更 属性編集
---

### 2008 年 11 月 2 日

---

ProjectORTHO Version 1.11.087

- ProjectORTHO プログラムは基盤情報 DTM(0.2 秒x0.2 秒)の DTM データも図郭(30 秒 x30 秒)同様に作成する事が可能になりました。  
ATL データ並びにアスキー形式での作成が可能で属性もアスキー形式内に追加可能です。

## 2008年11月1日

---

### RASTUTILI & RASTUTIL64

- RASTUTIL イメージユーティリティープログラムは衛星イメージ『World View-1』の各直下画像並びに各後方画像を統合して一つのステレオモデルを形成する事が可能になりました。

## 2008年10月7日

---

### WinATLAS Version 2.16.11.0

- WinATLAS プログラムのメインメニュー『テキスト』項目に新しい機能『テキスト2点間配置』並びに『テキスト3点間配置』機能が追加されました。

『テキスト2点間配置』機能は指定した2点間に入力したテキストの文字間隔を計算して配置する事が出来ます。

『テキスト3点間配置』機能はテキストボックス機能と同様の操作方法ですが指定した3点目の位置がテキストのサイズを決定し、1点目と2点目で文字間隔を計算して配置する事が出来ます。

## 2008年8月5日

---

### WinATLAS Version 2.16.10.2

- WinATLAS プログラムのメインメニュー『属性』項目の『ディスプレイ表示』機能に新しく『セグメント情報』機能が追加されました。  
この機能を選択すると画面上にウインドウが表示され、カーソルに一番近いセグメントの情報を表示する事が出来ます。

## 2008年7月18日

---

### WinBatch Version 1.8.13.0

- WinBatch(バッチ編集)プログラムの『属性リスト作成』コマンドに新しい機能が追加され名前も『非グラフィック属性』と変更されました。  
新しく追加された機能は選択したデータに属性コードと属性内容を追加並びに削除する事が出来ます。

- WinBatch(バッチ編集)プログラムの『複数コード拡張』コマンドに新しい機能が追加され名前も『マルチラインコード』と変更されました。  
新しく追加された機能は選択したデータにマルチコードラインを追加並びに削除する事が出来ます。

### 2008年6月17日

---

#### WATLScan プログラム

- WATLScan(データスキャン)プログラムは複数コードを持つラインデータのリストも作成可能に成りました。

### 2008年6月10日

---

#### WImport プログラム

- WImport プログラムは『NTF』ファイル形式 (National Transfer Format) を使用可能になりました。

### 2008年5月7日

---

#### WinATLAS Version 2.16.9.0

- WinATLAS プログラムは操作を速める為に次の3つのダイアログの表示をコントロールする事が可能になりました。
  - セグメントクローズ時の確認ウインドウ
  - ハング&クリップ機能使用時の確認ウインドウ
  - Pカウンター(=)表示時のXYZ指定ウインドウ

セグメントクローズ並びにハング&クリップ機能の確認ウインドウの表示は『ディスプレイ表示』機能に新しくこれらをコントロールする機能は追加されました。

Pカウンターは以前の様に初期設定が『XY』で設定されています。  
この設定を変更する為には『Pカウンター』ボタンを使用して変更して下さい。



## 2008年3月12日

---

WinATLAS Version 2.16.8.0

- WinATLASプログラムのインポートDXFファイルロード機能のファイル選択ウインドウに新しく次の『Z値オプション』機能は追加されました。
  - ファイルの標高値使用
  - 全ての標高値指定
  - 標高値ゼロ設定

## 2008年2月2日

---

WinBatch Version 1.8.12.0

- WinBatch (バッチ編集)プログラムのバッチコマンド『シンボル拡張』機能に新しく次の2つのコマンドが追加されました。

### 『テキスト反転180°』

この機能はテキストの位置は変更しないでテキストを180度回転する事が出来ます。

### 『テキスト原点修正』

この機能はテキストの原点を常に左側または下側に修正する事が出来ます。

## 2008年1月21日

---

WinATLAS Version 2.16.7.0

- WinATLASプログラムの『部分削除』機能に新しく『ライン始終点選択』機能が追加されました。

この機能は『部分削除』機能選択後、編集するライン上の部分的に削除または移動する位置を選択後、キーボードの『F3』を選択する事でそのラインの始点または終点を選択する事が出来ます。

## 2008年1月3日

---

WinBatch Version 1.8.11.0

- WinBatch(バッチ編集)プログラムのバッチコマンド『データポイント間引き』機能の『ポイント間最小距離』パラメータは大量ポイントファイルの様な大きいファイルデータを間引く為に使用する事が可能です。

## WUsrATL プログラム

- WUsrATL (ユーザー定義アスキーインポート) プログラムの変換タイプに新しく『DTMセグメント』タイプが追加されました。  
この機能を使用する事でインポートするアスキーデータをDTMセグメントでインポートする事が出来ます。インポート後のファイル拡張子は『.MPF』で作成されますがデータ形式はATLファイルです。

また、新しい機能『接近許容範囲』機能を追加され、この項目にポイント間の距離を入力する事で近い距離のデータを排除する事が出来ます。